



農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/>

第 15 号 香川県立農業大学校
〒766-0004
仲多度郡琴平町榎井 34-3
TEL 0877-75-1141
FAX 0877-75-3989
E-mail : nodai@mx8.tiki.ne.jp

- 専攻実習の取り組み □活躍する卒業生 □輝く修了生 □校外講師の授業風景
- 農業経営力養成講座に参加して □同窓会だより □農大ふれあい市

専攻実習の取り組み

卒業論文は集約段階

野菜園芸コース 新居 海渡

二年生は、農家や農業試験場又は校内で専攻実習を行っています。私は、校内の農場で専攻実習を行っていて、いろいろな野菜の管理から収穫までの様々な作業のノウハウを学んでいます。

最近では専攻実習の課題を卒業論文に仕上げるため、全員が懸命に課題に向き合っています。私の場合は、「春ブロッコリーにおける品種とマルチ、中耕土寄せ作業が生育に及ぼす影響」という課題に取り組んでいます。



春ブロッコリーでは、より早く収穫できて品質の良い品

種や栽培方法が必要で、そこで四品種の比較に加え、マルチや中耕土寄せの有無の組み合わせが異なる試験区を設置し、収穫物の重量や大きさ、収穫時の異常花蕾の発生などを調査しました。現在、調査は終わっていますが、データの集計と考察を行うこれからが本番なので、気を引き締め取り組みたいと思います。

新鮮な経験を重ねています

花き園芸コース 大喜太 聖

私は、輪ギクの専攻農家で専攻実習を行っています。私の住んでいる地域では、アスパラガスやキクの生産が盛んなこともあり、キク農家での専攻実習は良い経験になっています。特に、学校で使わない作業機械の使用や農家が独自に工夫した作業は非常に参考になります。専攻実習に取り組んで半年余りが過ぎますが、新たな経験が多く、とても新鮮に感じています。

専攻実習の中では「夏秋ギクの品質保持剤の効果」を卒業論文の課題に設定して取り組んでいます。今回の試験で

得られた結果が、他のキク農家や関係者にとって有益な成果になれば、と思っています。



今後の専攻実習では、もっと作業体験を増やすとともに人間関係を築きながら、社会性も身に付けていきたいです。

協力に感謝

果樹園芸コース 冬野 直人

専攻実習では、各自が担当樹種を持ち、プロジェクト学習に取り組んでいます。私はブドウとカキを担当しており、「シャインマスカットの一回目ジベレリン処理に混用するフルメット濃度が果実品質に及ぼす影響」をテーマに卒業論文に挑んでいます。

テーマに選んだブドウ品種は酸が少なく甘く、種なしで皮を除かずに食べられます

が、口の中に皮が残ると違和感を感じます。このような特性を評価するため、先日、収穫した果実を用い、同級生や後輩に協力してもらって品質調査を行いました。調査には経験したことのない膨大な時間と手間がかかりましたが、被験者になっていただいた皆さんに感謝します。データの集計や考察も大変な作業ですが、やればできると信じて頑張ります。



小僧の休日

造園緑化コース 飛谷 健人

昨年引続き、善通寺ガーデンコンテストに参加しました。今回のテーマは、「小僧の休日」です。二世代が同居する家の和と洋が融合した庭で、子供が元気に遊ぶ様子をイメ

ージして設計しました。

庭の奥側の洋の庭に小さいプールと孫に見立てた小便小僧を置き、手前側には、石積みを主体とした和の庭を造りました。作庭はとも大がかりなものとなり、石積み、植栽、整地、水の循環などとても大変でした。一番苦労したことは石積みです。なるべく隙間がなく、見た目もどっしりとした感じになるよう、石を一つ一つ組み立てていくのが大変でした。また、植栽で使用する樹木は、造園会社の方からお借りすることができ、とても助かりました。



残念ながら入賞することはできませんでしたが、自分の理想とする庭を造ることができ、良かったです。

今のところ順風満帆

畜産コース 岩田 彩加

二年生の畜産コース二名は、畜産試験場で豚と鶏の実習に励んでいます。私は主に肥育豚の飼育管理をしています。今年ウイルス性伝染病である豚流行性下痢が世界的に流行している、写真のように消毒などの防疫対策が大変です。



卒論のテーマは「トマト給与が肥育豚の肉質に及ぼす影響」です。ビタミンやミネラルに加えて抗酸化作用のあるリコピンを含むトマトを給与するため、毎週水曜日に集荷場、農業試験場、農大で規格外のトマトを集め、粉碎して凍結保存している間に夏が終わってしまいました。幸い、

供試豚のトマトに対する嗜好性は良好で、試験は順調に進みました。得られた結果を畜産以外の人にも分かりやすく伝えることを念頭に、卒論を作成していきたいと思います。卒業まであと半年ですが、いろいろな知識や技術を吸収し、就農時には即戦力になれるよう、一所懸命に頑張ります。

活躍する卒業生

兼若 諒さん(まんのう町)

平成二三年三月に農大を卒業し、直ちに新規就農した兼若さんは、標高八〇〇m付近で切り花栽培に取り組んでいます。主な品目は、地元で栽培実績のあったアスターと農大の卒論のテーマであったトルコギキョウです。「平地にある農大よりも高地にある実家の方が品質がよい」という卒論の結果が今に活かされています。

トルコギキョウは栽培が難しいですが、完売の知らせや大量の注文があるとやりがいを感じるし、お客さんから「き

れいやね」とか、「あなたの花でない」とって言われると最高の気分だそうです。

しかし反面、苦勞もあります。技術面ではお盆に合うようにする収穫期の調整です。また、労働面では雪対策です。冬場の農作業はほとんどできませんし、ビニールハウスが潰されないように管理しなくてはなりません。農業を辞めた人から譲り受けたハウスや薪ストーブを活用して雪と闘っています。



実家が農家であったので、幼い頃から農業を見て育った兼若さんにとって、農業高校から農大へ進学というのはごく自然な流れであったようです。農大での生活を振り返ると、花き園芸コースで「切り花」に出会い、細やかな技術

の習得や感性を磨いてきたことが、今の生活を支える大きな経験となったとのこと。一方で、最新の技術にも目を向けて積極的に挑戦していれば、という後悔も。

輝く修了生

高橋 健二さん（観音寺市）

観音寺市で平成二五年二月に就農した高橋健二さんを紹介します。高橋さんは平成二四年度の本校研修科野菜コースの修了生です。

専業農家の次男だった高橋さんは一般の会社勤めをしていましたが、退職を検討している際、ご両親からの要望もあり、農業を継ぐことになりました。これまでは手伝い程度だった農業を本格的に継承するには、まず基礎を身につけたいと、農大での研修を決めたようです。

気さくで誰とでもすぐ打ち解ける高橋さんは、兄貴分として、研修生仲間からも慕わ

れていました。家で農作業の手伝いをしていたこともあり、作業の段取りやポイントを押さえて他の研修生に教えてあげるなど、頼りになる存在でした。

卒業後に両親の農業経営を継承し、現在はレタススルオール、ネギーオール、水稲九〇アールを栽培しています。認定就農者に認定され、地元JAのネギ部会や担い手部会などにも積極的に参加し、近所の生産者からも農業のなかまとして認めてもらえるようになりました。人と人とのつながりを大切にする高橋さんの益々のご活躍を期待しています。



校外講師の授業風景

丸尾 聡子 先生

コミュニケーション演習を担当させて頂き、二年目にな

ります。まわりの人とうまく関わっていけるといふコミュニケーション能力の向上を念頭においての設定課目でありましょう。



農大のみなさんは、同じ科の方たちとは作業実習があるためか仲がよいと見受けられます。話すのが苦手な人も、好きなこと、その人の話に耳を傾けるとたくさんしゃべってくれます。みなさん、志高く、目標もあり素晴らしいと思います。ひっこみじあんや、無口な方もみなさん、自己肯定感を高める、自信をもっていただける授業をしていこうと思っています。

まずはあいさつです。おはよう、こんにちは、ありがとう、すみません、こうした短いことを臆せず使うことができます。よりよいコミュニ

ケーシオンを目指して一緒に演習がんばりましょう。

農業経営力講座に参加して

野菜園芸コース 藤田 皓平

この講座は、アグリフューチャーチャージャパンの主催で八月四〜六日に東京で開催され、本校からは畜産コースの一名と私の二名が参加しました。



私は、農大卒業後に二年間の海外農業研修を経て就農しようと考えています。その際、知識不足と感じている「経営」について広く学べる機会を得ました。

講座の中で特に印象に残っていることは、二日目の「先輩農業者の取組事例について学ぶ」です。五名の若手農業者が自分の経験を話してくれたわけですが、全員に共通していたことは、「農業を通して自分のやりたいことができるといふことです。皆さんそれぞれに苦勞はあるのですが、苦勞の中に「やりがい」

と「幸せ」を見つけていました。

農業に関わっている様々な年齢、多様な経歴の人達と会話する機会もあり、よい刺激になりました。そして、自分のビジョン設計に大きく役立ちました。将来のことで悩んでいる人は是非、参加することを勧めます。

同窓会だより

三豊・観音寺地区支部長

河田 進氏

私は、家がカーネーション農家だったので農大の花きコースに入學し、昭和五五年度に卒業しました。農大での実習やいろいろなイベントでの販売体験は現在の私の花き栽培の基本になっているように思います。二年生の先進農家での実習は体力的に厳しかったですが、生活するための農家の苦勞を知る事ができ、花き農家になる心構えができたと思います。



現在は、千坪のハウスでランキュラス、ヒマワリ、キンギョソウなどを栽培しています。

実際の栽培は、品目や品種の選定、高値がつく時期に出荷するための計画やきれいに花を咲かせるための栽培管理など、手間がかかって大変なことが多いのですが、思うような花が栽培できた時には達成感があります。

花き栽培を続ける中で、県内のいろいろな花き農家との繋がりができ、情報交換もできるようになりましたが、その中でも同じ農大の卒業生とは、年代を超えた話ができません。農大で勉強をしている人達も、将来は就農していたらいて農業をする仲間が増えると思っています。

農大ふれあい市

本校の学生自治会が、恒例の「農大ふれあい市」を次のとおり開催します。

本年も学生が頑張つて趣向を凝らした企画を用意しておりますので、皆様お誘いあわ

せの上、ぜひお越しください。

開催日時

十一月八日(土)

午前十時〜午後二時

内容(予定)

野菜、果物等の販売
苗物、鉢物、堆肥等販売
模擬店(焼そば、焼き鳥、菓子など)

オープンキャンパス

来年度、入学を希望される方や保護者の方で校内見学を希望される方は事前連絡の上、受付までお越しください。

お願い

本校の駐車場は、数に限りがございます。できる限り公共交通機関をご利用ください。

